

きよらさ80

浦添市美術館ニュース
2016年8月1日(年3回発行)

きよらさ:
「美しさ」「きよらかさ」を表す
琉球の古語



琉球交易港図屏風 19世紀 琉球 六曲一隻 (浦添市指定有形文化財)
中国から帰国する進貢船と那覇の港の賑わいが描かれています
10月25日(火)～11月6日(日) 特別展示

会期	平成28年9月9日(金)～平成29年1月10日(火)
観覧料	一般……………200円 シルバー(65歳以上)……………160円 大学生……………130円 高校生以下……………無料

平成28年度第Ⅱ期常設展示 第6回世界のウチナンチュ大会記念 「琉球漆芸と浦添の宝もの」

浦添市には13世紀ころの浦添グスクをはじめとする多くの史跡や文化財があります。また、市立図書館沖縄学研究室では、琉球王国評定所文書を解読し刊行したり、琉球・沖縄の歴史的資料を収集しています。そして当館は琉球漆芸を中心とした漆器コレクションを紹介する漆芸美術館です。

今期の常設展では、第6回世界のウチナンチュ大会を記念して、当館の琉球漆器のほかに、本市ならではの文化財の数々を「浦添の宝もの」と題して紹介します。

●漆芸―琉球の時代

琉球王国を代表する美術品であった琉球漆器の歴史と技法、漆器制作を管理した王府の貝摺奉行所(かいずりぶぎょうしょ)の仕事を紹介いたします。

●漆芸―琉球の御道具

部屋をしつらえる飾り道具の数々、膳・椀・東道盆といった宴席の道具などに華やかな漆器がありました。琉球の御道具の世界をお楽しみください。

●漆芸―沖縄の時代へ

近現代(1879年の廃藩置県以後)に沖縄がたどった歴史を漆器で紹介し

●浦添の宝もの

浦添グスク関連遺物として、浦添城前の碑(尚寧王が1597年に首里と浦添を結ぶ道を整備したときの竣工記念碑)の部位や青磁片、朝鮮瓦、浦添ようどれ(王陵)などの関連資料を展示します。

浦添グスク敷地内には沖縄学の父・伊波普猷(1876-1947年)の墓地があります。伊波と民俗学者柳田國男の書簡など、伊波にまつわる資料を紹介。

また、王国時代に浦添を領地とした上流士族や周辺の人々のゆかりの品をはじめ、浦添の人びとの暮らしを伝える民具を展示します。

このほか、中国から帰国した進貢船を迎える人々で賑わう那覇の港の様子が描かれた「琉球交易港図屏風」を10月25日(火)～11月6日(日)の期間、特別公開します。ぜひ、この機会にご覧ください。

※毎週日曜午後2時、
学芸員によるギャラリートークを開催
※音声ガイド(日本語・英語・中国語)を無料貸し出ししています。

展覧会のお知らせ

●宇宙散歩 by MEGASTAR

主催 琉球新報社

MEGASTAR(メガスター)とは、プラネタリウムクリエイター・大平貴之氏によって制作された新世代のプラネタリウムシステムです。本物の星空が持つ奥行と広がり、再現を可能にしました。また、「世界で最も先進的なプラネタリウム」としてギネスブックにも認定されました。

本展覧会では、「人が表現する宇宙」「心の宇宙」「立体宇宙を体験」「科学が解き明かした宇宙の果て」の4つのテーマを柱にした展示をします。

○人が表現する宇宙

子供たちに満天の星の制作を一部依頼し、自由な感性により描いた星をつなぎ合わせてひとつの宇宙を表現します。

○心の宇宙

東京都現代美術館で展示され、大好評を博した「夢幻宇宙」を沖縄版にアレンジして初展示します。沖縄の街の夜景から幻想的な音と共に「夢の中で見た異次元宇宙」へトリップ。

○立体宇宙を体験

天文観測データを基に座標を定め、最新の技術を駆使して立体的に星雲を配置。地上からみた星空とは違う立体感と宇宙に投げ出されたような浮遊感を楽しめます。

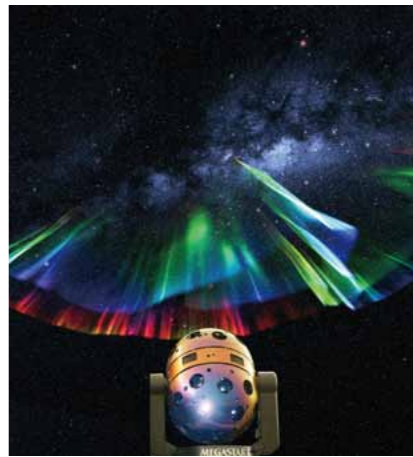
○科学が解き明かした宇宙の果て

時空を超える不思議宇宙旅行。宇宙の果てまでお連れします。

○会期 7月23日(土)～8月28日(日)

○観覧料 一般1200円(1000円)
小中学生800円(600円)

※(内は前売り及び20名以上の団体料金)
お問い合わせ 琉球新報社 営業局
098-865-5200



●第29回ライオンズクラブ国際平和ポスターコンテスト展

主催 浦添でだこライオンズクラブ

本展は浦添市内小中学校16校の生徒が「平和万歳」をテーマに描いたポスター展示会です

○会期 10月8日(土)・9日(日) 無料

●浦添市文化協会 第35回文化祭

主催 浦添市文化協会

浦添市文化協会会員の方々の絵画・書・写真などを展示します。

○会期 11月24日(木)～27日(日) 無料

●ダウン症の女流書家

金澤翔子の世界展―共に生きる―

主催 琉球新報社

本展覧会は、ダウン症の書家として知られる金澤翔子氏とその母が企画する展覧会です。

金澤翔子氏は5歳の時に母・泰子氏より書の手ほどきを受けました。その才能を鎌倉建長寺住職に見いだされて活躍。2011年のNHK大河ドラマ「平清盛」の題字で脚光を浴びるなど、その作品と書に向き合う姿は人々に感動を与え続けています。今初めて、沖縄での本格的な個展となります。周りの優しさに包まれて、のびのびと力強く、生命力あふれる金澤翔子の作品をぜひご覧ください。

○会期 9月3日(土)～10月2日(日)

○観覧料 一般800円(700円)
中学高校生600円(500円)
小学生400円(300円)

※(内は前売り及び20名以上の団体料金)
お問い合わせ 琉球新報社 営業局
098-865-5200



金澤翔子氏

●なつかしき昭和の思い出展

谷内六郎の絵とオキナワの子どもたちの写真

主催 沖縄テレビ放送
プロモーション・ワン

本展覧会の谷内六郎氏は、『週刊新潮』の表紙を25年間描き、国民に親しまれている抒情画家です。横須賀美術館・谷内六郎館所蔵の作品より、50点また、戦後沖縄の子どもの写真作品40点、合わせて90点を展示します。

○会期 10月8日(土)～11月13日(日)

○観覧料 一般800円(600円)
小中学生300円(200円)

※(内は前売り及び20名以上の団体料金)
お問い合わせ 沖縄テレビ放送
098-896-4415



「冬のかざぐるま」
1961(s36)年
©Michiko Taniuchi



「靴磨きの少年 国際通り」
1956(s31)年
山田實